

議事録

会議の名称	令和5年度第17回西東京市総合計画策定審議会
開催日時	令和5年8月7日（月曜日）午後5時から午後6時40分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦委員、河野美晴委員、小松真弓委員、佐久間雄一委員、篠原京子委員、土井隆司委員（50音順） 事務局：柴原企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、樽見企画部主幹、山田企画政策課課長補佐、広瀬企画政策課副主幹、八巻企画政策課主任、豊田企画政策課主事、鎌田企画政策課主事 欠席：佐々木亮翔委員、中島伸委員、中嶋亮太委員、松川紀代美委員
議題	議題1 開会 議題2 諮問事項に対する協議検討 (1) 西東京市第3次基本構想・基本計画案（答申） 議題3 その他
会議資料の名称	資料1 基本理念変更案 西東京市第3次基本構想・基本計画案【答申用】
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>議題1 開会</u> 会長より開会の挨拶</p> <p><u>議題2 諮問事項に対する協議検討</u> (1) 西東京市第3次基本構想・基本計画案【答申用】について 事務局から資料1、西東京市第3次基本構想・基本計画案【答申用】に沿って説明</p> <p>○会長 資料1について、修正前の1段落目と2段落目の文章につながりがあるため、前回の審議会が出た案のように「わたしたち」についての説明が1段落目の最後にあると、文が分かりづらくなってしまう。 また、中心にいる行政、その周りにいる計画策定に主体的に関わった人、さらに外側にいるアウトリーチによって市民参加した人、そしてその人達以外の市民や今後10年で移り住んでくる人全員を「わたしたち」と呼ぶということを狙いとしていたが、前回審議会が出た案のままでは、総合計画の策定に関する話に限定されてしまう恐れがあった。市政に関わっていない人も含めて総称を「わたしたち」とするべきなのではないかと考えた</p>	

め、新たな修正案のような書き方となった。

新たに付け加えた文章は、修正前の4後段目の「そのため」につながるように工夫した。

○委員

資料1について、行政、計画策定に関わった市民、そうでない市民を全て包括していて分かりやすい。また、文が冒頭に出ていることで読み手に伝わりやすい。

「関わらなう」「関わらなくてははいけません」という文章に比べて、「関わっています」という文章だと現時点で関わっていると感じられるので良い。

○会長

審議会で話していることがここにいない人にも伝わるかが大事である。市政に関わっていない人も、「関わっています」と言われると自分も無関係ではないと思える。

○委員

「SDGs」の表記について修正していただき感謝する。

市民活動や計画策定に参加した人は、自分達の意見が総合計画にどれくらい反映されているかを見るので、彼らの意見がしっかり反映されているのだということを示してほしい。

○会長

委員からいただいた意見は、今後、第3次総合計画の策定に向けた最終調整で反映していただき、本日の答申書のとおり答申とさせていただきますよろしいでしょうか。

(承認)

- ・会長より副市長に答申書を手交

議題3 その他

○会長

委員の皆様には、全17回、2年にわたって、様々な議論を重ねるだけでなく、市民参加の機会に参加していただくなど様々な形で主体的に計画策定に関わっていただいた。これまでの審議経過などを振り返っていただき、ご意見やご感想をいただきたい。

○委員

西東京市は地元であり愛着があったが、シンポジウムやワークショップなどで総合計

画の策定に市民が関わることができるということはこれまで知らなかった。西東京市をより良くしたいという熱意のある方と関わることのできる機会があり、大変有意義であると感じた。

多くの市民の意見を聞いてきたが、子どもワークショップの参加者には、今後「以前の西東京市と比べて今はどうか」とリサーチできる機会があれば良いと思う。

○委員

58年西東京市に住んでおり大好きなので、これからも住み続けたいようなまちづくりに関わりたいと思っている。

「学校を核とした地域づくり」には興味があり、地域の方が参加できるバレーボール大会を企画したこともあった。参加者が楽しんでいるのを見て、地域で楽しめるようなことをやっていきたいと感じた。学校を地域に開放して、コンシェルジュを置き、誰でも相談に行くことができる、市の出張所のような場所にしてほしいとお願いしていたので、そのようなことができるの良いと思っている。

また、環境問題に関して、いこいなを使った指標があると、子ども達にも分かりやすく良いと思う。

○委員

コンサルタントの方、事務局の方、現場に多く足を運んでくださった市長、副市長など多くの方と計画を作ってきた。

審議会が始まった当初からマイノリティやサイレントマジョリティの方の声を汲み取ることが、「SDGs」と表記しなくても誰一人取り残さない持続可能なまちづくりにつながると考えていた。委員のワークショップではマイノリティの意見も拾うことができ良かった。

子どもど真ん中という政策になり、施策について、「子ども」という観点でまとめるなど、第2次総合計画とは違った見せ方をするという検討をした点については勉強になった。

万が一子どもの人権が侵害されても、そこにも目を向けて対応するという文言を入れていただいた。

委員の一人ひとりが読み込むことで、「作ってよかった」で終わるものではなく、この計画を広めていき、何か質問されたときにはしっかりと答えられるようなものになったのではないかと思う。

これからも「わたしたち」のまちを作る市民の一員として関わっていきたい。

○委員

最初は、10年後をイメージし、計画を読み解くのが難しかったが、プロセスを重ねた

り、委員の方々の意見を聞いたりすることで理解が深まった。そのため、これが誰にとっても分かりやすい計画になると良いなという思いがあり、どうすれば言葉遣いや思いが分かりやすく、伝わりやすくなるか、考えさせられるような計画策定になった。

基本理念は、その裏にある思いについて、委員会の中で話し合うことができ、愛着のあるものになった。

また、総合計画は大きな計画ではあるが、普段福祉の現場で聞いているような一つ一つの声から作られるようなものであると良いなという思いも持っていた。今後この総合計画はそれぞれの計画につながるので、そこでもこの審議会でのことを共有しながら意味のあるものにしたい。

分野横断的な連携は大切なものである。関係機関だけではなく、市民も含めて境をなくすことで、より住み心地の良いまちになると良いと思う。

これまで、まちづくりよりも狭い「地域づくり」をしていたが、審議会を通して自分がこれまで関わることのなかった分野についてまで視野を広げることができた。

○委員

自分の関わっている金融機関以外にも様々な分野があり、普段の自分の生活に関わっているものが多くあると知った。普段は、まちづくりや地域のにぎわい創出に金融機関がどれだけ貢献できるかを考える部署にいる。

より良いまちになって、住みたいと感じる人が増えてほしい。また、良いまちには人が集まるので、少しでも良い方向にまちが進んでほしいと思っている。

今後西東京市がどうなるか興味があり、期待しているので、今後も関わっていきたい。

○委員

何が起って、今後どうなっていくのかについて、SDGsが大きな指針になると信じて委員会に参加していた。2030年を目指してこの考えを実行できたら光栄である。

朝、ウォーキングをしながらゴミ拾いをする中で、自分から挨拶ができるようになった。これは自分が主体的に動くことでできるようになったことであり、自分の変容である。市民の一人ひとりが、今までの自分と違ったことに挑戦できるような計画の中身を浸透させていきたい。

この後が大事なので、計画に血を通し、筋肉をつけられるよう、市政には期待している。

○委員

市民委員として自分の立ち位置を考えていたが、様々な理由で忙しく、大変な思いをして生活をしており、行政や市民活動になかなか関われなくとも、たまに市報を見て感じてくれるような、そんな人達の代表が自分なのではないかと思った。

総合計画全てを頭に入れることは難しいが、基本理念だけでも市の職員の方全員が覚えていると、市民としてはとても温かい気持ちになると思った。総合計画は、市の職員の方が迷ったときに見る羅針盤のようなものになると良い。

市の職員の方が基本理念に向かって仕事をしていることを知った市民は、市の職員の方をリスペクトする。この関係はまちづくりの基本であり、この関係があると良いまちになると思う。

○会長

西東京市にいらっしゃる宝のような方々に沢山出会えたことが一番印象に残った。審議会は非常に勉強になり、シンポジウムも素晴らしかった。才能、想いがあって、実践を積んでいる人が沢山いることが分かった。ワークショップなど市民参加の際は、「自分はこういったことをしている」と表に出していないときでも熱い想いを持っていると思われる方が沢山いた。

策定の基本方針を検討する中で、市政に参加していない人に対して「そのままでもいい」というご意見は強く印象に残っていた。それが最終的に基本理念の言葉をまとめるときにも表れていたと思う。

市長、副市長が市民参加の場に足を運んでくださったことや、事務局の方が熱心に様々な企画を立てられていたことも印象に残っている。広く市民らの声を引き出すことに、工夫をしてくださったことに感謝する。

今後は冊子、概要版、子ども版、WEB版などの作成があるが、どれも分かりやすく伝わるようなものにしてほしい。

「学校を核としたまちづくり」に関する話題もあった。「学校を核としたまちづくり」は、20万都市を中学校区で分けて約2万人を1つの単位とする起爆剤であるが、コミュニティや行政のサービスの住民単位は階層的であることを否定していない。既存の機能は残したままにするという考えがパブリックコメントの段階では伝わっていなかったのは課題である。市民に誤解のないように伝えてほしい。

6ページの図について、前半部分は庁内連携、後半部分は官民連携について書かれている。この審議会では話し合うことができなかった箇所もあるので、そういったところもしっかりとまとめていただきたい。6つの柱と分野横断的施策は、今後の10年間でしっかりと進めていただきたい。ここまで支えていただき感謝する。

○副市長

令和3年度から約2年間にわたり、総合計画策定に御尽力いただき感謝申し上げます。みなさまのお話を伺い、熱い想いが伝わってきた。

基本理念は市の職員と市民がともに大切にするキーワードであるべきである。「やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ」も好きだったが、これまでの20年を礎に

ステップアップする時期だと思う。この時期に新しい基本理念ができたのは、大変大きなことであり、職員共々大切にしていきたいと思っている。

分野横断というのは、縦割りになりがちな行政にとって苦手なものである。6ページにある「さまざまな主体との協働」は大事なことであり、行政が縦割りになっていると感じたときには指摘していただきたい。それが「さまざまな主体との協働」につながると思う。

5ページの「未来を担う子どもにまちづくりのバトンを渡していく」という言葉がある。これは自分達世代もそうだが、ミライを語るシンポジウムのパネラーの方、子どもワークショップに参加してくださった方々もバトンを渡す役である。そのため、「ともにみらいにつなぐ」という言葉を大切に、次の世代へつないでいくために頑張っていきたい。

今日で終わりではなく、10年後の西東京市をよくするために引き続きお力添えいただきたい。

○会長

若手職員のワークショップでは、総合計画を作っていくプロセスの中で、市政を直接動かしている若手職員の方が分野を超えて熱心に議論していたのが印象に残った。今後は各委員の想いも含めて計画をまとめていただきたい。

○事務局

西東京市第3次基本構想・基本計画案については、再度細かい表現の確認等を行い、9月の上程を考えている。今後の修正については、事務局にご一任いただきたい。

今後、事務局ではいただいた答申に基づき、事業調整を行う。完成したら、委員の皆様にもご報告を考えている。

○会長

審議会自体は今日で終了だが、子ども版についてどこかのタイミングで意見を伺う機会があった際には、各委員の皆様ぜひご協力いただきたい。

第17回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

(閉会)